

富谷市日中・第26回定期総会を開催！

＝コロナを乗り越え、友誼の活動を前進させる1年に＝



6月27日(日)午後2時から、町上会館を会場に会員15名が参加し行われました。初めに中山会長は「コロナの影響で思うような活動ができない一年でしたが、皆様のご尽力で日中友好の活動が続けられました。本年も力を合わせて前進しましょう」とあいさつ。浅野理事を議長に横山事務局長から2020年度の活動と決算、伊豆田監事からの監査報告があり、承認されました。

また2021年度の活動(主な行事は下記)と予算案が水戸理事長から提案され、了承されました。最後に松田副会長が「主な行事が提案されました。コロナを乗り越え、チームワーク第一、日中仲良く活動していきましょう」とあいさつしました。なお懇親会は昨年同様行いませんでした。

また2021年度の活動(主な行事は下記)と予算案が水戸理事長から提案され、了承されました。最後に松田副会長が「主な行事が提案されました。コロナを乗り越え、チームワーク第一、日中仲良く活動していきましょう」とあいさつしました。なお懇親会は昨年同様行いませんでした。

- (1) 9月に「秋の農業体験交流」
- (2) 10月の「富ヶ丘公民館まつり」に協力
- (3) 2月に「新春(春節)の集い」の開催

※ いずれもコロナの状況次第で変更もあります。詳細は「TNC通信」に掲載いたしますので、よろしくお願いたします。

【ご協力のお願い】 会費の納入・振込は7月中にお願いいたします。なお協会機関紙『日本と中国』の購読もご検討ください！

【丑年アラカルト】

「汗牛充棟」一書物が多くて、車に積んで動かせば牛も汗をかき、また積み上げれば家の棟木に届くぐらい、蔵書の多い譬え。孔子が『春秋』を書いて以降いろいろな註解や説の数は数えきれなかった事からきている。柳宗元『陸文生墓表』

『中国少数民族民話』「苗族 楼花という名の大泥棒」2

楼花の前科はことごとく調べられ、「斬首の刑(打ち首)」が宣告されました。この時代、「斬首の刑」を宣告されたものは、刑が執行される前に、一つだけ願い事が叶えられる決まりになっていました。そこで楼花は、「斬首の刑ー？ 結構な話じゃないか。だが、母を呼んできてくれ！ 会って、最後の別れがしたいんだー」と願いました。

楼花の心情を憐れんだ首切り役人は、すぐに楼花の母親を呼びに行かせました。お母さんは、知らせを聞くとすぐに駆けつけました。すると楼花は、お母さんを見るなり、せわしくねだりました。「母さん、もう一度、おっぱいを吸わせてくれないか」。お母さんは、咄嗟にその意味がわからず、しばらく考えていました。しかしすぐに、自分の息子がまもなく、本当に首を斬られるのだと理解しました。

すでに人垣ができていましたが、彼に近づくと、人眼をはばかることなく、着物の前帯を解き、取りだした自分の乳首を彼に含ませました。「ギャー」と一瞬、甲高い絶叫が響き、お母さんはその場に気を失ってしまいました。

なんと、楼花はお母さんの乳首を噛み切ってしまったのです。それを見ていた周りの人たちは、思わぬ出来事に茫然自失として立ち尽くし、言葉もありません。ただ、事の推移を見守るだけです。

しばらくして、お母さんが目を覚ますと、それを見た楼花は、乳首を口から吐き出して言いました。「あのとき、オレがトウガラシやナスビを持ち帰った時、あんたはそれらをどこから採ってきたかも聞かず、逆に褒めたたえた。それで今じゃあ、オレは天下に隠れもしない、二つ名の大泥棒だ。そして今、打ち首になる……。これもすべて、あんたがオレになした害毒だ！」

お母さんは楼花の言葉を聞くと、胸のキズと、心の痛みからいたたまれなくなり、ふらふらと立ち上がり、ゆっくりとその場から立ち去って行きました。



第4回「漢方から考える健康講座」行う

県協会が主催し好評の講座。今回は“梅雨時の健康”が主テーマで、講師の漢方薬剤師・曾萍氏との質疑を中心に行いました。

「中国語スピーチコンテスト」を10月に開催！

◎参加申込は7月末◎

(公社)日中友好協会主催のスピーチコンテストの東北大会の大綱が発表されました。

<日時>10月31日(日)午後2時

<会場>日立システムズホール(市青年文化センター)

<部門>①スピーチ②朗読、の2部門

<申し込み締め切り>7月31日

<詳細>県協会のホームページから募集要項をダウンロードして下さい。